

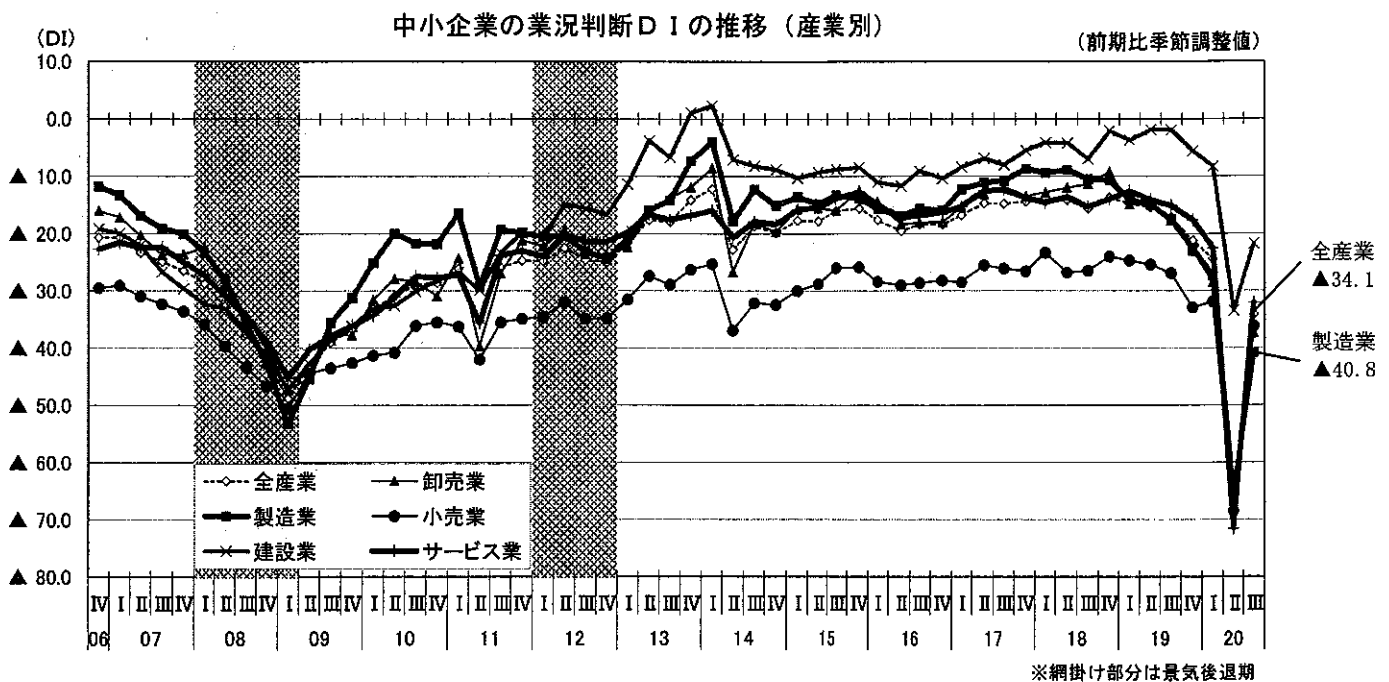
2020年9月

第161回 中小企業景況調査報告書 (2020年7-9月期) 〈製造業編〉

※DIとは…
「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

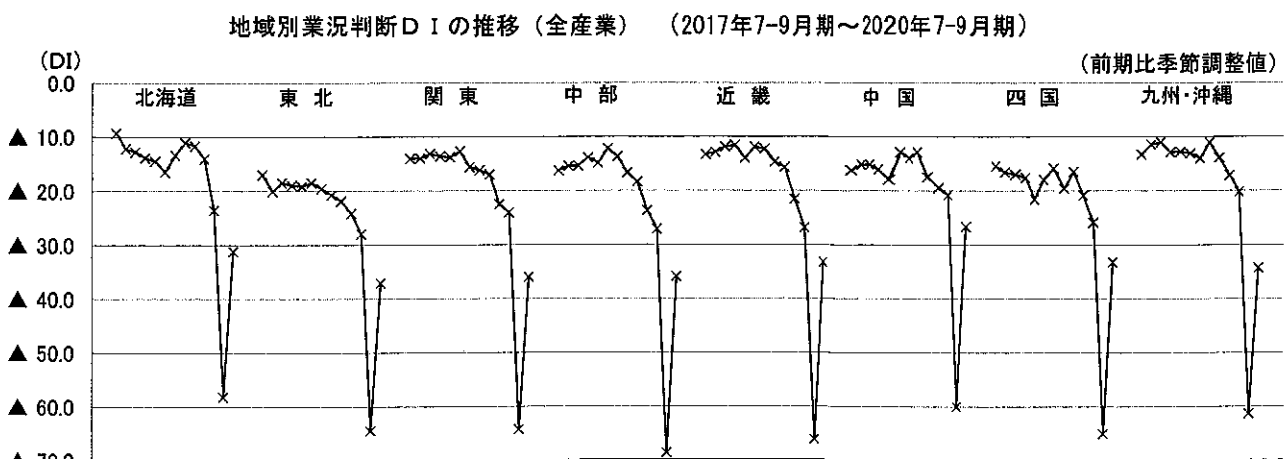
中小企業基盤整備機構 企画部 調査課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)
URL:https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html

中小企業の業況判断DIは、持ち直しの動きがみられ、7期ぶりに上昇した。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、7期ぶりに上昇した。(▲64.1→▲34.1)



〈地域の業況〉

中国、近畿、中部、四国、関東、東北、九州・沖縄、北海道のすべての地域でマイナス幅が縮小した。

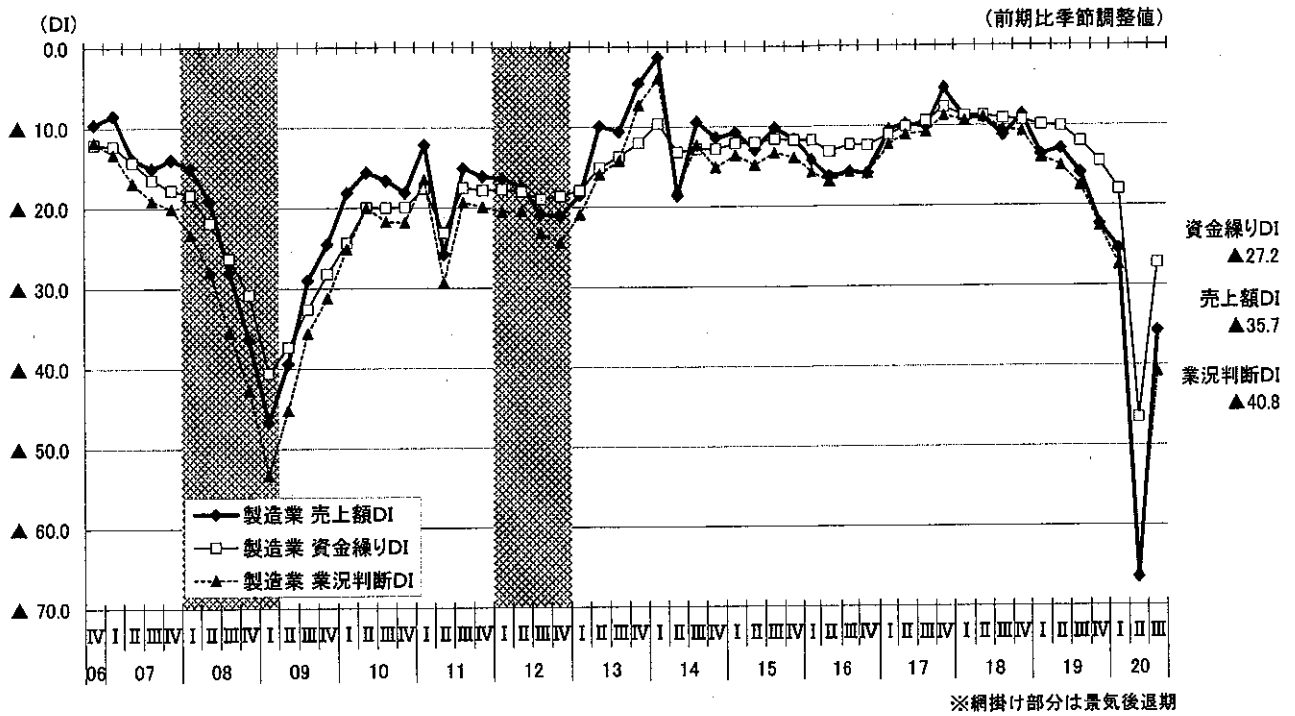


1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

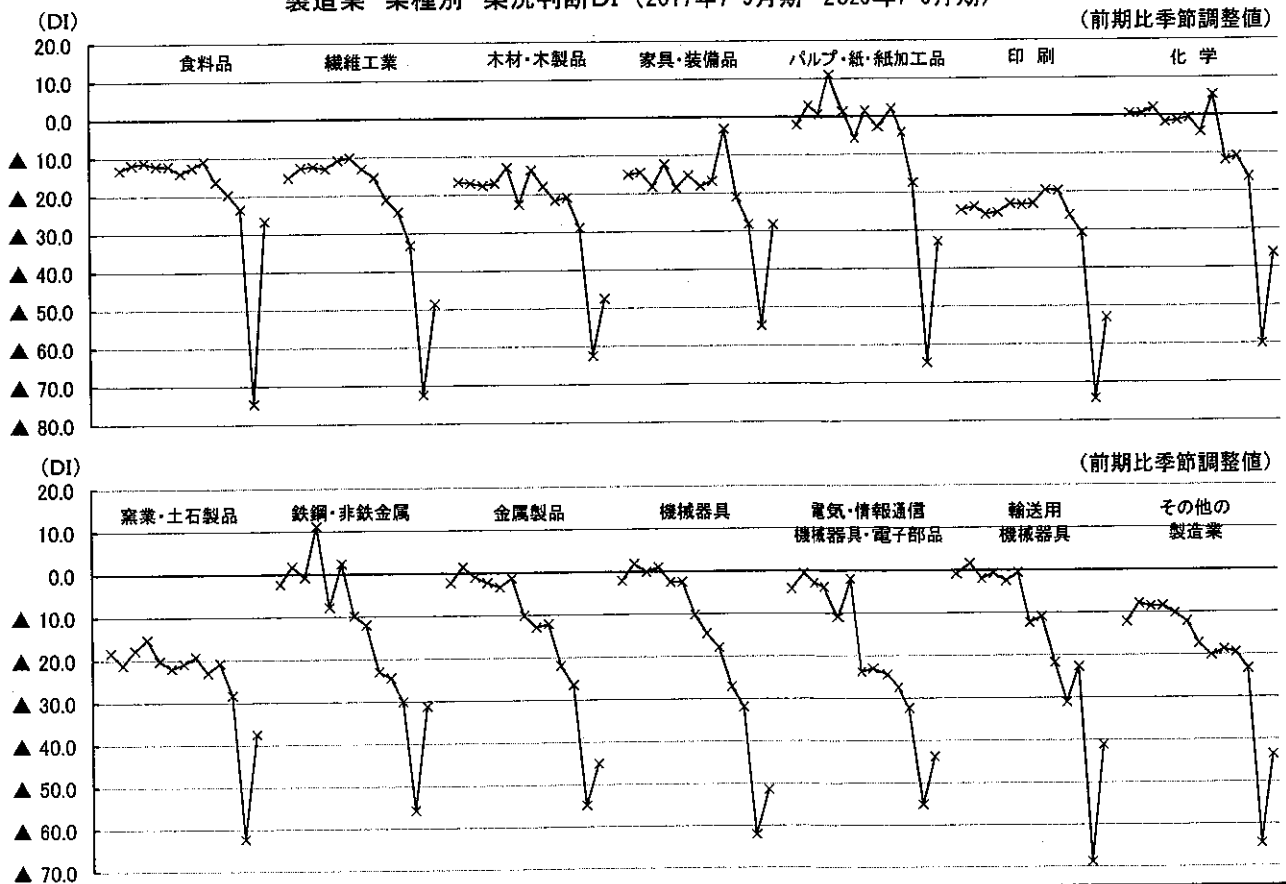
1. 製造業の動向

製造業の業況判断DIは、(前期▲65.9→) ▲40.8 (前期差25.1ポイント増)と9期ぶりにマイナス幅が縮小した。また、売上額DIは、▲35.7 (前期差30.8ポイント増)、資金繰りDIは、▲27.2 (前期差19.3ポイント増)といずれもマイナス幅が拡大した。

製造業の14業種の内訳では、食料品で▲26.7 (前期差47.9ポイント増)、パルプ・紙・紙加工品が▲32.9 (前期差31.8ポイント増)、輸送用機械器具▲41.1 (前期差27.7ポイント増)など全業種でマイナス幅が縮小した。



製造業 業種別 業況判断DI (2017年7-9月期~2020年7-9月期)



2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で19.8%（前期差2.0ポイント増）と増加した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2020年7-9月期	22.8	13.6	17.5	13.7	13.5	17.7	36.2	22.1	19.2	19.6	20.2	24.2	27.2	15.8	19.8
2020年4-6月期	20.3	10.7	12.7	11.3	16.2	16.8	25.4	17.9	28.0	20.8	18.1	20.2	29.5	9.8	17.8
2020年1-3月期	19.8	12.6	13.0	10.7	17.3	19.4	31.4	22.9	21.7	20.4	21.6	18.2	31.9	15.4	19.2
2019年10-12月期	26.0	15.7	15.3	11.6	17.5	20.2	32.4	19.6	32.0	29.5	25.9	28.3	30.6	20.1	23.3
2019年7-9月期	20.7	16.1	13.0	9.0	18.5	24.1	30.6	20.1	33.3	31.1	29.5	26.0	35.2	15.7	22.7

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「需要の停滞」が1位にあげられており、「生産設備の不足・老朽化」が2位、「製品ニーズの変化への対応」が3位となった。また、前回5位の「従業員の確保難」が4位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (7-9月期)	需要の停滞 (47.5%)	生産設備の不足・老朽化 (7.7%)	製品ニーズの変化への対応 (7.4%)	従業員の確保難 (4.8%)	製品(加工)単価の低下・上昇難 (4.7%)
前期 (4-6月期)	需要の停滞 (47.7%)	生産設備の不足・老朽化 (6.6%)	製品ニーズの変化への対応 (6.0%)	製品(加工)単価の低下・上昇難 (4.5%)	従業員の確保難 (4.0%)

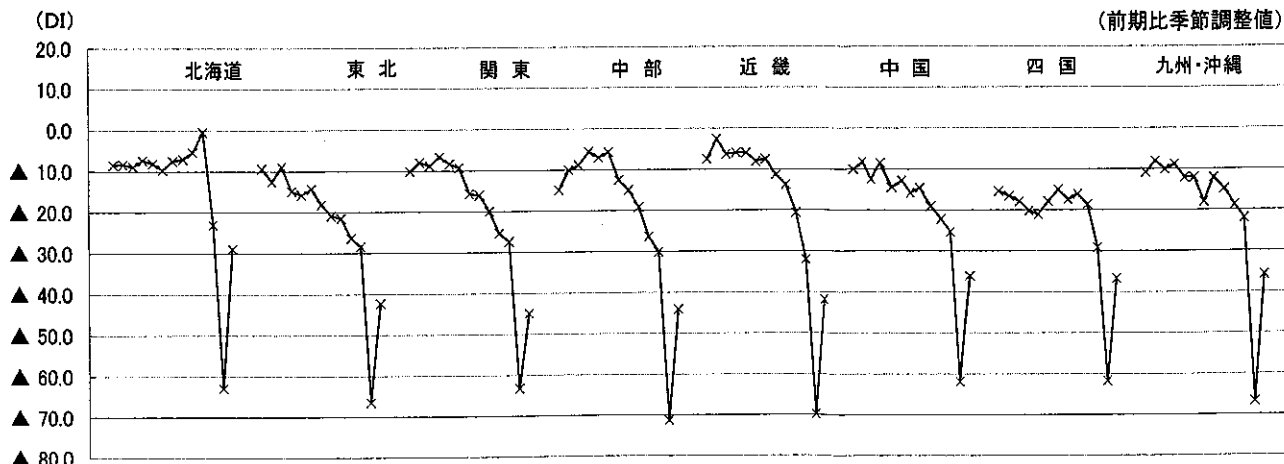
4. 製造業の地域別業況判断D I

地域別に見ると、北海道、九州・沖縄、近畿、中部、中国、四国、東北、関東の全ての地域でマイナス幅が縮小した。

中小企業の地域別業況判断D Iの推移

製造業

(2017年7-9月期～2020年7-9月期の動き)



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

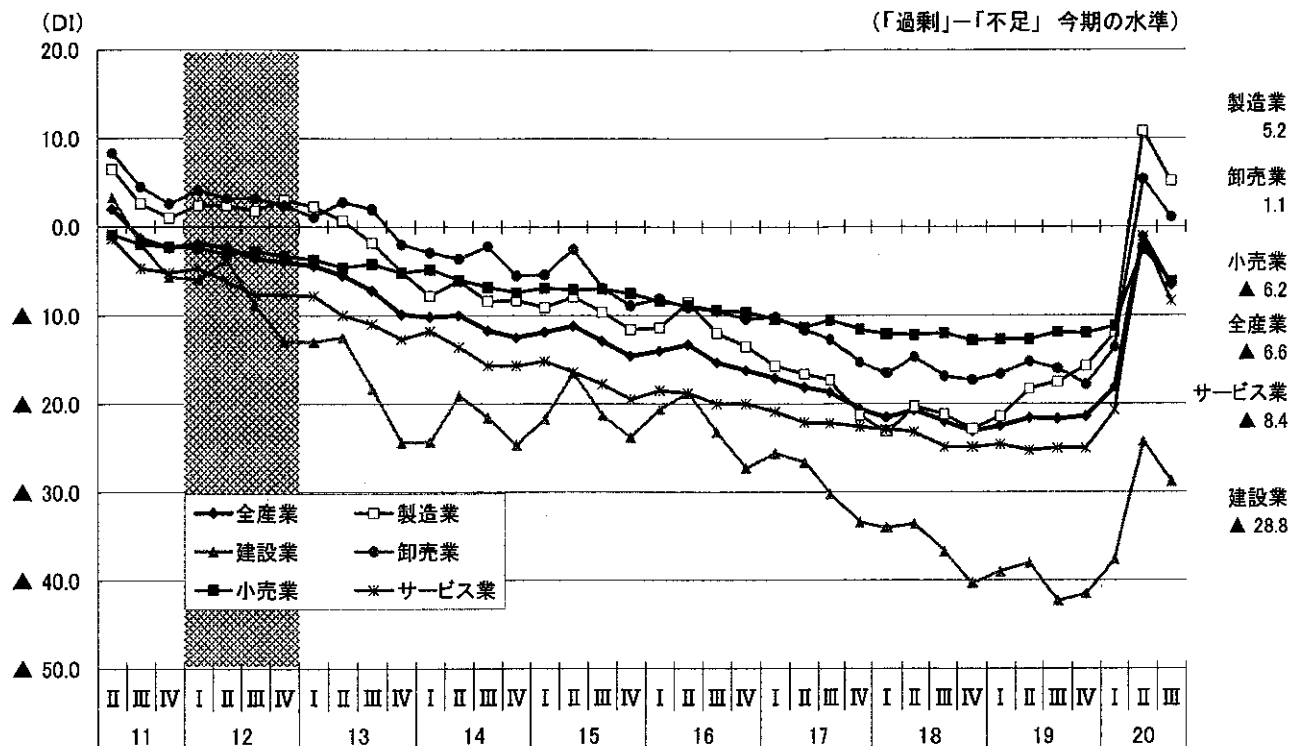
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

5. 製造業の従業員数過不足D I（今期の水準）の推移について

従業員数過不足D I（「過剰」－「不足」、今期の水準）は、（前期10.8→）5.2（前期差5.6ポイント減）と過剰感が弱まった。

産業別従業員数過不足D Iの推移



【調査対象企業のコメント】

- ・ 新型コロナウイルスの影響で業績が減少。特にインバウンド減により土産関係が低調。ここに来て水産資源の漁獲減になりそうなので関連資材に影響ありそうな感じ。秋の農産物が今の処順調な為、期待を持っています。（パルプ・紙・紙加工品 十勝・釧路・根室）
- ・ 新型コロナの感染拡大により家庭内食等の増加を象徴とした内需の高まりによって売上げが伸びている。鶏肉主要輸出国の生産停滞も国内相場の安定を下支えしている。今後はウィズコロナやアフターコロナの経済回復の波に乗れるかどうか。（食料品 岩手）
- ・ 現在は、コロナ禍の影響はそれほど感じていない。当社の主軸製品であるベアリングの受注は安定している。大きいロットは海外へ流れる傾向は継続するであろうから、多品種・中小ロット・高付加価値の受注を目指したい。（機械器具 埼玉）
- ・ 新型コロナウイルスの影響でオリンピック関連の予約がキャンセルとなり大幅な売上減少になったが、飲食店が移動販売車に転換を企画する案件が倍増しており、今後の契約数をいかに増やすかが後期の課題となる。（輸送用機械器具 石川）
- ・ 配置薬の減少が著しく、製造できない商品が一気に増加する気がする。（化学 奈良）
- ・ 新型コロナウイルス感染症による他県への営業活動も自粛中です。先の見えない状況下の中、ウィズコロナの時代に合った新しい生活様式を受け入れながら営業活動の見直し等々を図り今後の業績アップに続けたいと思う。（家具・装備品 岡山）
- ・ コロナの影響による日本全体の景気悪化や秋冬によりコロナの拡大等、先の見通したたず。又、材料生産の稼働が悪く、材料入手が困難になってきている。（繊維工業 香川）
- ・ 手持ち案件の数が例年と比べ多く請負金額も多い為、業況は良好であると判断した。しかし技術者不足の為、現在の請負以上の売上げは期待薄。より効率の良い案件をこなすのが重要であると考えている。（金属製品 宮崎）

【調査要領】

- (1) 調査時点：2020年9月1日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,890のうち有効回答数18,230（有効回答率96.5%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,471を集計したもの。）